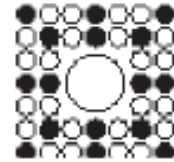


Newsletter of the British Council Japan Association

BCJA Newsletter

No.29

February 28, 2013



お知らせ

奨学基金への寄付を募ります

BCJA 奨学基金は、BCJA 会員の有志の方々からの寄付金を基盤として、英国留学生の支援活動を着実に進めてきております。今年度も奨学生の募集を行いますので、奨学基金へのご寄付をお願い申し上げます。

(詳しくは、本ニューズレター8ページをご覧ください。)

募金計画

寄付金額：一口 5,000 円

口座番号：00180-0-426794(ゆうちょ銀行)

加入者名：BCJA 奨学基金

同封の振込用紙をご利用くださいませ。

年会費の納入をお願いします

BCJA 運営のため、年会費の納入をお願いいたします。

納入方法

年会費金額：2,000 円

口座番号：00180-0-426794(ゆうちょ銀行)

加入者名：BCJA 奨学基金

同封の振込用紙をご利用くださいませ。

2013 年 BCJA 年次総会の日程が決定しました

2013 年の BCJA 年次総会の日程が下記の通り決定いたしました。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時

日時：2013 年 11 月 16 日(土)16 時より

場所：根津美術館(東京都港区南青山)

詳細については近日中にご案内を郵送いたします。

BCJA 役員および執行部を募集いたします！

BCJA の運営のためにご協力いただける方を随時募集しております。Yahoo! グループなどで活動もしておりますので、是非ご連絡ください。

ご連絡先

Yahoo!グループ <http://groups.yahoo.co.jp/group/bcja>

メールの方は：ishiikayoko@hotmail.com

2012 年 BCJA 年次総会について



BCJA 会長 青柳昌宏

2011 年の BCJA 総会については、2011 年、3 月に東日本で発生した大地震の影響で総会の準備を進めることができず、大変申し訳ありませんでした。約半年遅れになりますが、2012 年 7 月 28 日(土)に西田先生のご厚意により根津美術館の講堂を使わせていただき、BCJA 総会を開催させていただくことができました。なお、総会の後に、開催中の展覧会「藤花図そして南蛮・島物のうつわ」について、先生より直接ご説明をいただきながら、貴重なコレクション(1 階の屏風、2 階の青銅器、茶道具、うつわ)を鑑賞させていただくことができました。また、懇親会は、場所を変えて開催させていただきました。以下が議事次第になります。

(1) 会長報告と審議

総会開催の時期、場所、内容について、変更になった経緯を説明しました。BCJA 奨学生のメンバー勧誘および役員会への参加勧誘など、今後の課題を議論しました。

(2) BCJA 奨学金報告：別項参照

(3) 会計報告と承認：別項参照

(4) ニューズレター・ホームページ報告：別項参照

(5) 新役員および新執行部の選出

会長：青柳昌宏

会計：島津幸男

講演会および AGM 担当：西田宏子、山口晶子

ニューズレター担当：石井加代子

BCJA スカラー担当：斉木臣二

役員：白鳥令(委員長)、青柳昌宏、平正臣、池島大策(敬称略)

の方々が承認されました。

なお、総会についてのお問い合わせは、masa_aoyagi5@yahoo.co.jp までお願いいたします。

2012 年度英国留学奨学金審査委員会ご報告

BCJA 英国留学奨学金審査委員会 委員長 白鳥 令

2001 年から始めました BCJA 英国留学奨学金は、今年で 11 年目、新しい歴史をつくる年度となりました。本年も、6 名の方々に奨学金を差し上げることができました。授与者として選出されました方々は、いずれも、業績・能力の点でも英国留学の動機の明確さの点でも非の打ち所のない優秀な、英国の大学院レベルの学術研究機関から既に受入の決まっている方々で、今後の活躍が期待されます。奨学金のためにご寄付いただきました BCJA 会員の皆さま方、審査を担当されました委員の先生方に、心からお礼を申し上げます。

昨年度の応募者総数は 80 名で、一昨年度の 54 名を大きく上回りました。この 3 年間を見ても、2009 年の 41 名、2010 年の 54 名、2011 年の 80 名と、年を追うごとに応募者が増えています。奨学金の額がわずか 15 万円という少額の BCJA 奨学金にこれだけの応募があるのは、現在の経済状況を反映していますが、同時にもっと他の理由もあると思われます。

2012 年度奨学金授与者リスト

姓	名	留学先研究機関	研究分野	所属 / 出身校
出来尾	格	Nottingham Trent University	Bioinformatics	慶應義塾大学
行木	瑛子	School of Oriental and African Studies, London	Applied Linguistics	国際基督教大学
片桐	諒子	King's College London	Nutrition	千葉大学
鶴飼	友彦	London School of Hygiene and Tropical Medicine	Public Health	東北大学
阿部	正太郎	University of Glasgow	Urban Planning	徳島大学
天野	晟	University of Cambridge	International Law	早稲田大学

われわれ BCJA 会員の多くは、かつて英国政府 (British Council) 奨学金で英国に留学しました。私自身も、1963 年から British Council の奨学生として Oxford 大学の Pembroke College に留学し、貴重な経験を得ることができました。ところが、現在、国家公務員等フルタイムの職務経験を有する限定的な人々を対象としたチーブニング (Chevening) 奨学金のような奨学金はありますが、かつての British Council 奨学金のような、誰でもどの分野の専攻でも応募できるオープンな英国留学の奨学金が存在しません。British Council 奨学

金は、日本が先進国となった現在、日本からの留学生には適用されていません。昔 British Council 奨学生で英国に留学された多くの方々が、現在日本の学界や実業界で指導的な立場に立って居られることを考えると、かつての British Council 奨学金のようなオープンな英国留学奨学金が存在しないことは、日英関係の広範な支持基盤の将来を考えると、決してよいことではありません。BCJA 奨学金は、額は少額でも、この隙間を埋めているのだと思います。

BCJA 奨学金への応募が増えているもうひとつの理由は、この奨学金の授与者の質の高さが評判となっているためだと思います。現在、英国のいくつかの大学や研究機関が、この奨学金の授与者に追加的な奨学金授与を検討しています。BCJA 奨学金の授与者には、British Council の代表から推薦状が発行されますが、これによって例えば医学の分野では、診療に際してより広範な研修への参加が可能となっています。私共は、BCJA 奨学金授与者の質の高さを今後も維持し、額としては少額でも、名誉ある奨学金としての評価を高めたいと考えています。

現在、BCJA 奨学金は、BCJA 会員の募金によって維持されていますが、先月、ある地方在住の BCJA 会員から、「英国留学で貴重な体験を若い頃に得たので、遺産の中で、遺産の一部を BCJA 奨学金に寄付したい」との申し出がありました。奨学金委員会は、感謝の気持ちで、この申し入れを受けました。私も、若い頃の英国留学の経験に報いたいと、英国エセックス大学の比較政治学の教授職を 1983 年から 1990 年迄つとめましたし、エセックス大学在職中に、三和銀行のご厚意で約 4 億円の寄付を同行からエセックス大学に行うことができました。多くの BCJA 会員の皆さまの善意の行為が、日英の学術文化関係を草の根で支えているのだと考えています。どうぞ、この BCJA 奨学金を維持し育てるために、今年度も、BCJA 会員の皆さまから BCJA 英国留学奨学金口座へのご寄付を心からお願い申し上げます。

来年度の BCJA 英国留学奨学金応募要領等の詳細は、来年 4 月初旬に BCJA のホームページに発表する予定です。

2009 年度 BCJA 英国留学奨学金授与者からの近況報告

Institute of Neurology, Queen Square における最先端機能的神経外科

中嶋 剛

2009 年 10 月から 2011 年 9 月の 2 年間、BCJA 奨学生として御支援を賜りながら Unit of Functional Neurosurgery, Institute of Neurology, University College London に留学する機会をいただきました。

「機能的神経外科」という言葉に対して多くの人は「??、」という反応を示すかもしれません。脳神経外科学は体系的に脳血管障害(いわゆる脳卒中など)、腫瘍性疾

患、神経外傷、脊椎脊髄疾患などサブカテゴリーに分類でき、それらの中の一つとして機能的神経外科という領域が存在します。パーキンソン病、ジストニア、難治性疼痛、痙縮などに対する中枢・末梢神経系への電気刺激治療、神経回路遮断術、薬物持続投与機器の留置、遺伝子治療の一分野などが該当します。これまで脳神経外科専門医として広く臨床および研究に従事してきた中で、私が特にサブスペシャリティとして専攻するのがこの機能的神経外科領域です。神経系の研究・臨床に従事される多くの方々にとっては「Queen Square (QS)」という呼称のほうが馴染みかもしれませんが、Underground の Russell Square 駅から徒歩 2 分ほどの場所にある Queen Square。それを取り囲むように UCL Institute of Neurology は存在します。当該分野の研究および臨床機関として常に世界をリードしてきた組織であり、これまでも多くの日本人研究者・医師がこの施設で研鑽されてきました。神経外科分野に携わる者にとって Horsley-Clarke apparatus と呼ばれる脳手術用機器で有名な Sir Victor Horsley が QS 出身であり、現在の QS の神経外科部門は彼に敬意を表し The Victor Horsley Department of Neurosurgery と呼ばれています。この巨大組織の中の一部門、機能的定位脳手術に特化したチームとして Prof. Marwan Hariz をボスとする Unit of Functional Neurosurgery が存在します。神経外科医 3 名、神経内科医 4 名、その他に神経心理、言語療法の専門家、専属ナース、PhD students から構成されています。また、Unit を中心に神経生理学や神経放射線学などの専門家が多数にわたる関連領域の研究を行っています。当施設における定位的脳手術の特徴は Prof. Hariz の強い信念に立脚するところが多い。すなわち、安全性と治療効果をいかに高いレベルで達成できるかという点に傾注しており、手術室内に装備された MRI 機器で手術直前・直後の頭蓋内画像評価を行うことで手術合併症を最小限に抑え最大限の治療効果を得ようとする方法論、特に機能的神経外科領域における応用はまさに世界最先端の試みです(Fig. 1)。近年、当該分野では上記した疾患群にとどまらず精神疾患に対する外科的治療法の開発が欧米などの先進国を中心として盛んに進められています。過去のロボットミ-手術への反省から、医療技術としての安全性、神経科学としての正当性、そして医療倫理への符合など多くの重要課題を含有する領域であり、日本国内においてはまだ臨床実地に至っていないのが現状ですが、そうした“最先端課題”に急先鋒に取り組む施設としての QS の役割・キャラクターに身を以て習熟することが出来ました。英国への留学期間中、同じ欧州内で機能的神経外科分野を先進している施設(パーキンソン病に対する視床下核刺激治療の創始施設とも言える Grenoble University Hospital (France)、ジストニアに対する淡蒼球刺激治療の分野で世界をリードし続ける Medical University of Hanover (Germany)、そして近代定位脳手術時代の先駆けとして重要な Umea University Hospital (Sweden))にも出張滞在し、論文を読むだけでは決して得ることのできない真の State-of-art を会得して行くことができました。

臨床的活動の傍ら、機能的神経外科に関連した基礎的研究にも従事させていただくことができました。QS から徒歩 3 分程、丁度 Coram s Fields に面したところにある Nanomedicine Laboratory, Centre for Drug Delivery Research, UCL School of Pharmacy という研究施設で中枢神経系疾患に対する定位的遺伝子治療の担体開発に従事しました。ここでは詳細は割愛しますが、この経験を経て感じたのはウイルスベクター以上の高効率ベクター、ナノマテリアルの開発が将来の当該分野発展のキーファクターになるだろうという事と、パーキンソン病に対する遺伝子治療を含め過度にマーケティング主導化した医療技術・薬剤の開発は時として正当な医学の進歩を遅延させてしまう危険性を孕んでいるという事です。日本国内でのパーキンソン病に対する遺伝子治療も様々な要因で現在、一時停止している状態です。早急な解決が望まれるところです。

英国滞在中にいろいろな事が身の回りでも起こりました。国際時事では“アラブの春”、“東日本大震災”、“ギリシャに端を発する欧州経済危機”、英国内では大学の大幅学費値上げに対する学生や教職員らによるデモ、警官による移民系住民射殺を契機とした英国全土での大暴動など。ひとつ御紹介したいのは、2011 年 3 月 13 日付け Independent の表紙です (Fig. 2)。ご覧になった方も少なくないでしょう。逆の立場になった時、我々日本人も同じことができるだろうか？ 学術的な面と少し違った視点から英国の国風を感じたものです。最後になりますが、BCJA 奨学生として御支援を賜りましたことを心より感謝申し上げますと同時に、現在の非常に流動的な世相にあってグローバルな視点で挑戦し続ける将来の BCJA 奨学生の皆様にエールを送りたいと思います。

(2009 年度 BCJA 奨学生, University College London, 脳神経外科)



(Fig.1 Queen Square では MRI が装備された手術室で機能的神経手術が行なわれる。)



(Fig.2 2011年3月13日付けIndependentの表紙。)

2011年度BCJA 英国留学奨学金授与者からの近況報告

オックスフォード大学博士課程での毎日
: 将来的な日本社会への貢献を目指して

齋藤 雪絵

はじめに、BCJAより奨学金を授与いただいたこと、心から感謝申し上げます。2011年夏よりオックスフォード大学の博士課程で学ぶ機会をサポートいただき、現在も英国で勉学を続けています。オックスフォード大学は800年の歴史があり、実践よりも学術的な学問(古典や宗教、歴史等)に大学からの奨学金が優遇される傾向があるように感じています。また、日本社会は博士課程に対する理解が十分であるとは言えず、一定の年齢以上になって収入を得ずに学生に戻ることにに対して抵抗もあり、また、日本の機関からの奨学金プログラムは博士課程に対するものは大変限定されています。このように、日本人学生で実学に近い分野の博士課程で学ぶ私のような者が金銭的、精神的なサポートを得る機会が大変限定されている中、BCJAより奨学生に選考していただき、博士課程開始に向けて背中を押していただきました。

私はフランスで修士号を取得後、長年の目標だった国連機関で勤務を始めたものの、周囲の職員が国連公用語を3ヶ国語以上母国語レベルで自在に扱っていたり、博士号を持って専門性で競っているという環境を目の当たりにしました。機関はもちろん即戦力のみ求めており、アウトプットの毎日で、若手を育てるという風土は全くないため、正直この実力のまま機関内で張り合っても、限られた貢献しか出来ないのではないかと考え始め、将来的に国際機関に戻るにしろ、他の道を探るにしろ、自分の専門を極めた上で社会

に貢献することを目指すことが大切だという結論に至り、博士課程に進学することを決心しました。英国での博士号修得は最低でも3年半かかるといわれていますが、海外でも通用する専門性を身に着ける最後のチャンスという心構えで毎日を英国で生活しております。

私の博士課程のテーマは、多国籍企業の環境、社会、企業統治に対する取り組みと(海外)投資家や株主との関連を扱っています。開発途上国での企業活動を含んだグローバル・サプライチェーンについても、そのフレームワークで分析しています。日本企業をケースとして取り上げ、博士課程1年目の5月には会議での発表、11月には初めて著作が国際ジャーナルより出版されました。指導教官に恵まれたこともあり、博士課程2年目の初めに出版が出来るというのは異例のスピードだとのことでした。このテーマに近いところでは、2011年の某日本企業の企業統治関連のスキャンダルが英国では注目されています。事件から1年以上経過した2012年11月終頃にもこちらの主力新聞やテレビで、例の元英国人社長のインタビューが英語メディアで取り上げられ、日本企業全体が悪いというような理不尽な情報が継続的に流されました。指導教官と話していて感じることは、日本企業は海外から見るとまだ謎に包まれている部分が多く、実態がきちんと理解されていないということです。そんな中、英国で学ぶ日本人学生としての私の役割は、日本企業を冷静に分析、説明し、今できることとして、まずはアカデミアという立場から世界に向けて発信することだと思っています。

私は社会人経験があるため、学生生活で自由の利く時間のありがたみを感じつつも、いつも張りつめているわけではなく、オックスフォードでの学生生活も出来るだけ楽しむようにしています。オックスフォードでは世界中からの著名人による講演会を聴く機会に恵まれています。数々のノーベル賞受賞者(平和賞受賞のアウン・サン・スー・チー氏や、ムハメド・ユヌス氏、経済学賞のアマティア・セン氏等)から歌手やハリウッドスター(アニー・レノックスやジョニー・デップ等)まで、幅広い方々のお話を聞く機会もありました。また、生涯スポーツとしてテニスを始めてみたり、ワインサークルに所属して毎週フランスから招かれたワイナリーの主人の話を聞いてテイastingをしたりもしています。800年の歴史があるオックスフォードでの生活は、伝統を感じる機会も多く、名門カレッジの一つであるクライスト・チャーチでの夕食に招かれました。フォーマルホールといって、学校にあるダイニングホールの長いテーブルでの食事が伝統として引き継がれています。食事の味は正直英国の学生が毎日食べているものなので皆様ご想像にお任せしますが、映画ハリー・ポッターの撮影現場にもなったこともあり、雰囲気は特別なものでした。オックスフォードは世界的な会議の開催地になることも多く、私は個人的に興味のあったソーシャルビジネス関連の会議、スクール・フォーラムをお手伝いしました。インターネット上の初のマーケットプレイスといわれるイーベイを設立したジェ

フ・スクールが出資する財団のフォーラムで、私はアフリカの女性リーダーたちのセッションや、ソーシャルキャピタルを支援するアショカ設立者の講演の運営をお手伝いし、視野を広げながらも自分の専門に近い部分で人脈を作る機会にもなりました。

オックスフォードでの博士取得までにはあと数年かかることになりそうですが、BCJA に精神的に大きくサポートしていただいたこの御恩を忘れず、オックスフォードで学んだことを将来的に日本社会へ貢献できるよう、日々頑張っていきたいと思っております。



(名門クライスト・チャーチでのフォーマルホール)

(2011 年度 BCJA 奨学生, Oxford University, 経済地理学)

2011 年度 BCJA 英国留学奨学金授与者からの近況報告 ロンドンで翻訳を学ぶ

高野 友香

2011 年度 BCJA 英国留学奨学生として、School of Oriental and African Studies (以下 SOAS), University of London、日英翻訳修士課程 (MA in Theory and Practice of Translation) を修了致しました。この場をお借りして、留学を支援して下さいました BCJA の皆様に厚く御礼申し上げます。本

稿では、約1年に渡る留學生活と近況について報告させていただきます。

1 . SOAS について

SOAS はロンドン市内北東部の、大英博物館やロンドン大学のキャンパスが点在するアカデミックな雰囲気が漂う地区に位置しています。生徒数 6,000 名、キャンパスというよりも2つのビルで構成されている小規模な大学ですが、全体の 4 割が留学生という非常に国際色豊かな大学です。アジア・アフリカ・中東の地域研究と語学コースが充実している大学で、その範囲は多岐に渡り、私が専攻した翻訳コースに関しては、翻訳理論と実践、翻訳テクノロジー、言語学など多彩なカリキュラムが組み立てられていたので、SOAS を選びました。



(SOAS メインビルディング)

2 . 翻訳コースについて

履修していたコースは大きく分けて、1) 翻訳理論と実践、2) 翻訳テクノロジー、3) 言語学、4) 修士論文の 4 つで構成されていました。ここでは簡単に授業内容を紹介したいと思います。

(1) 翻訳理論と実践

翻訳理論の授業では、翻訳に関する理論、歴史やテクニックを学びます。その理論やテクニックを使って、文脈や読み手の特性、時代背景などの条件をふまえながら、論文、小説、契約書、絵本、マニュアル、広告、ニュースなど様々なジャンルの文章を実践の授業で訳していきます。

(2) 翻訳テクノロジー

最近では Google 翻訳を始めとする機械翻訳が普及してきました。しかしまだその精度は低いと言わざるを得ません。このようなテクノロジーを使った翻訳の現状や同じ単語やフレーズの繰り返しが多い場合の文書(取扱説明書など)を翻訳する際に使う翻訳支援ソフトの使い方を勉強します。

(3) 言語学

日本人教授による、日本語を英語で学ぶ授業です。日本語と英語の文法構造の違いに始まり、「は」と「が」の使い分けやオノマトペ(擬音語と擬態語)、「これ、それ、あれ、どれ」のいわゆる「こそあど」の分析など、日本語を体系的に学ぶことが初めてだったので、日本語ネイティブの私にとっても

大変でしたが、有益な授業の1つでした。

(4) 修士論文

翻訳コースの修士論文は英文 10,000 ワードのうち 6,000 ワード分は自分で選んだ英文を日本語に翻訳し、残りの 4,000 ワードはその翻訳に関してどのような理論を使って書いたかを述べる翻訳プロジェクトでした。

英文を選ぶに際して、私はイギリスで人気のレジャーの1つであるウォーキングを題材にすることにしました。イギリスではウォーキングコースが国土全体にまるで毛細血管のように張り巡らされていて、人々が日常的にウォーキングを楽しんでいます。私もイギリスに到着して間もなく、田園風景の美しさに魅了され、勉強のリフレッシュを兼ね、毎週末のようにロンドン郊外へウォーキングに出かけていました。日本ではまだ馴染みの薄い英国でのウォーキングを日本語で紹介したいと思い、このテーマを選びました。1語1語の訳文に頭を悩ませながら完成させた修士論文でしたが、無事に卒業認定をもらうことができました。



(ロンドン郊外の田園風景)

3. 近況

2012年夏より、夫の仕事の都合によりエジプトのカイロに住んでいます。生活が落ち着いてきた頃から少しずつ在宅で翻訳の仕事をしています。パソコンとインターネットさえあれば、世界中どこでも仕事ができるのが翻訳者の強みだと思います。カイロではアラビア語の勉強もしており、将来的にはアラビア語翻訳の仕事も手がけていきたいと思っています。

4. まとめ

翻訳は「英語ができれば翻訳者になれる」と誤解されがちですが、この1年でそれは大きな間違いであることを学びました。英語から日本語への翻訳の場合、英語の読解はできて当然であり、それをいかに「正しい」日本語にアウトプットするかが重要なので、日本語がとて重要になってきます。この「正しい」というのが曲者で、誰にとって正しいのか、どのような解釈で正しいと言えるのか、判断は人によって違ってきます。そのため翻訳に 100%の「正しい」訳文はありません。いかに多くの人々が違和感を持たずに、その文章を読めるか、それを支える黒子的存在が翻訳者だと思います。

まだまだ駆け出しの翻訳者ではありますが、BCJAの皆様に支えていただき、じっくりと翻訳の勉強に励んだ1年を糧に今後も精進して参りたいと思います。ここにBCJAのご支援頂いた皆様に、無事に留学生生活を終えられたのを報告させていただくと共に、心より感謝の念を申し上げます。ありがとうございます。

(2011年度BCJA奨学生, School of Oriental and African Studies, 翻訳理論)

2011年度BCJA 英国留学奨学金授与者からの近況報告

ブラッドフォード大学平和学部紛争解決学科での留学を終えて

河野 雄太

はじめに

私は2011年度のBCJA奨学生として2011年9月から翌2012年9月まで、ブラッドフォード大学 平和学部 紛争解決学科の修士課程に在籍し、同年12月に同課程を修了しました。ご支援頂いたBCJAの皆さまに心からの感謝の意を込め、留学の報告をさせていただきます。

留学の経緯

紛争解決や人間の安全保障に興味を持ったのは、青年海外協力隊としてインドでの活動に従事している時でした。現在、世界では貧困の解決を目指して様々な援助が行われていますが、援助には多くの形があります。受益者の自立を促す援助もあれば、逆に受益者の依存心を強め、自立を阻んでしまうような援助もあります。そのような様々な援助の形を見て、私は過剰な援助は受益者の為にはならない、と考えるようになりました。それと同時に、将来、人間にとっての基本的な権利を守るような人になりたいと思うようになり、生存権や人間の安全保障に興味を持つようになりました。そして、インドから帰国した2011年に平和や安全保障、紛争研究に強いブラッドフォード大学への留学を決意しました。

活動報告

ブラッドフォード大学はイングランド北部のウエスト・ヨークシャー州に1832年に設立された大学で、1973年に開設された同大学の平和学部は、平和と紛争解決研究に関する世界最大規模の学術機関となっています。英国の大学院の多くがそうであるように、ブラッドフォード大学の平和学部でも、研究を進める主体は学生個人であり、授業はあくまで各学生が限られた時間内で最大の研究成果を出せるよう土台を提供することを目的としていました。授業では一つの分野に深く踏み込むことは稀で、基本的には広く浅く、その科目の

2012 年度 BCJA 会計決算報告書

2011 年 11 月 1 日 ~ 2012 年 10 月 31 日

内で行われている主な研究を満遍なく表面的に紹介します。授業で紹介された様々な研究テーマの中から学生は自分が興味を持ったものを選び、それについて多くの文献を読みエッセーを書きます。ですから、授業は言ってみれば通販のカタログのようなもので、その中で気に入ったものを学生は選んで研究する、といった感じです。

私は在学中の 1 年間で、「紛争が終結した後に女性の被害が増えるのは何故か」といったものから「日中韓の三角関係を分析し、その上で地域安全保障分野での三国の協力の可能性を考察せよ」といったものまで計 6 本のエッセーと修士論文を書きました。修論のテーマは、「平和博物館が日中韓の歴史問題の解決にどのような貢献ができるか」というものでした。限られた時間でエッセーや修論を書くのは大変でしたが、問題発見、情報収集、分析、立案、執筆などを短時間でこなしていく力が身に付き、それらは社会に出た今でも役に立っています。

勉強以外では、休暇に英国国内外を旅行してヨーロッパの文化を肌で感じた他、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の被害と、その後の復興、現在の課題などをまとめた展示を他の日本人の同期と共に震災の 1 年後に行い、多くの来場者に日本の復興と現状を見て頂くことができました。

帰国後

現在私は、公益財団法人アジア福祉教育財団という組織の難民事業本部(RHQ)という部署で働いています。当財団は日本政府の難民支援政策を執行する機関で、私は、日本で難民申請を行っている外国人の中で生活に困窮している人々を支援する係に所属しています。紛争と安全保障からは少し外れた分野ですが、当面はこの立場で経験を積みたいと思っています。ブラッドフォードで過ごした 1 年間は現在の職に就くにあたり非常に重要な時間でした。最後になりましたが、この機会をお借りして多大なご支援を賜りました BCJA の皆さまに感謝の意を表し、私の報告を終わらせて頂きます。

(2011 年度 BCJA 奨学生, University of Bradford, 紛争解決学)

(一般の部)

収入の部

科 目	金 額
前年度繰越金	47,622 円
年会費@2,000	26,000 円
5 年分年会費	80,000 円
BCJA 総会会費	17,000 円
合 計	170,622 円

支出の部

科 目	金 額
振込代@120×5	600 円
@80×3	240 円
ニューズレター	68,250 円
WEB サイト	37,842 円
発送	45,000 円
印刷・アルバイト	169,860 円
名札代	4,410 円
入館料	16,000 円
交通費	760 円
WEB サイト(23 年度)	30,660 円
文具	2,310 円
合 計	375,932 円

2012 年 10 月 31 日現在の資産状況

次期繰越	205,310 円
------	-----------

(BCJA 奨学基金の部)

収入の部

科 目	金 額
前年度繰越金	1,079,000 円
郵便振込	203,000 円
合 計	1,282,000 円

支出の部

科 目	金 額
奨学金@150,000	900,000 円
振込代	10,840 円
小計	910,840 円

2012 年 10 月 31 日現在の資産状況

次期繰越	371,160 円
------	-----------

2013 年度 BCJA 奨学基金趣意書

2013 年 1 月 31 日

BCJA 会長 青柳昌宏

BCJA 奨学基金は、2000 年より BCJA 会員の有志の皆さまからの寄付金を基盤として、英国留学生の支援活動を着実に進めてきております。昨年度は、6 名の留学希望者に対して、奨学金を授与することができました。

今年度も奨学生の募集を行いますので、奨学基金へのご寄付をお願い申し上げます。

記

一口 5,000 円 二口以上でお願い申し上げます。同封の郵便振込用紙に、振込額、住所、氏名をご記入の上、下記口座宛にお近くの郵便局でお手続きいただければ幸いです。

ご寄附頂きました方々への領収書等の発行は特に致しておりませんが、必要であればご連絡、或いはご寄附の際に振込用紙にその旨、ご記載下さいますようお願い申し上げます。

尚、御礼状に関しては Newsletter にて代えさせていただきますことを御理解下さい。

口座記号番号: 00180-0-426794

加入者名: BCJA 奨学基金

事務局 島津幸男

〒745-0004 山口県周南市毛利町 3-37-1-612

連絡先 Tel: 090-8773-1024 Fax: 0834-32-4030

e-mail: shimazu@herb.ocn.ne.jp

BCJA の銀行口座のお知らせ

金融機関名: ゆうちょ銀行

金融機関コード: 9900

店番: 019

店名: 0一九店(ゼロイチキョウ店)

科目: 当座

口座番号: 0426794

受取人名: BCJA ショウガクキキン

要注意!

総会参加費等、BCJA への振込時、ネットバンキングをご利用の会員の皆様には、次の点をご注意下さい。

振込先: ピーシージエイ (BCJA)

2011 年度 BCJA 奨学基金協賛者一覧

2012 年 10 月現在

協賛者総数	87 名	総額	203,000 円
派遣者数	8 名	奨学金総額	900,000 円

(6 名支払い済み)

協賛者氏名 (敬称略 順不同):

青柳昌宏	斉藤友博	長澤奏
荒木蕎	斉木臣二	西田宏子
安藤仁介	白鳥令	西村(逗子)
安藤莫之	白川正男	野城真理
阿部和彦	島津幸男	能口盾彦
池上忠弘	塩田洋	原川博善
石渡淳一	菅井直介	肥田野直
井上公正	杉下守弘	広本勝也
伊藤達郎	杉浦和朗	太田隆英
石井明	諏訪部仁	古沢平太郎
小倉暢之	関谷透	藤田道也
岡田博有	田中典子	堀内博
岡村定	田中治彦	町睦生
緒方健	田中(小石川)	松井昭
岡井清士	田口博國	松井達郎
川本敏	竹内百合子	益山新樹
柿内夏葉子	多田稔	峰本暁子
河本直紀	高柳和夫	三井弘
河合秀和	高田康成	三浦省五
金子雄二	玉井俊紀	武藤春充
加藤久雄	田辺和子	森田青平
木村浩	塚本泰	矢口宏
桐敷真次郎	塚原重雄	山田隆美
久保田経三	手塚統夫	山田昭廣
小鍛冶繁	時枝正	山中健
小松敬	難波光義	山下純宏
佐藤修二	南方暁	横山昭
佐野雅子	中山修一	横山俊夫
斉藤文良	中井農	吉田徹夫

BCJA ホームページについて

ホームページ担当

BCJA のホームページ <http://www.bcja.net/> では、過去のニューズレター閲覧、BCJA 英国留学奨学金、BCJA 活動状況、メンバー向け案内などがご覧になれます。幅広く有益な情報を提供できるサイトにするため、どうぞ皆さまからのご意見、ご希望をお寄せ下さい。

ishiikayoko@hotmail.com まで

Yahoo!グループ[bcja]のご利用案内

Yahoo!グループ担当

BCJA 会員の情報交換、情報伝達などに活用していた
だために、Yahoo!グループの中に BCJA 会員専用グル
ープとして、[bcja]グループを新規に設定いたしました。
既にメンバー登録を開始しております。登録を希望される
方は、下記の URL にアクセスして下さい。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/bcja>

電子メールのアドレスをお持ちでない方、また、個人、
会社のアドレスでは何かと不便な方は、yahoo の電子メ
ールアドレス(旅先などで共用 PC から簡単にアクセスでき
ます)が新たに取得できますので、そのアドレスをお使い
下さい。

[編集後記]

青柳会長より後を受けて、27号より編集を担当させていた
だいております。私事ですが、昨年4月に第1子を出産いた
しました。のんびりとした産前休暇もあつという間に終わっ
てしまい、出産後は待ったなしで子育てに追われております。
子どもが寝て再び起きるまでのわずかな時間を使って細切
れに編集作業をしていたため、いろいろと遅れてしまい申し
訳ありませんでした。皆様のおかげでなんとか出版に漕ぎ着
けたこと、心より感謝申し上げます。

本レターへの投稿を幅広く募集しております。皆様の留
学体験談、研究・事業活動のご紹介、英国との交流事例、
最新の英国事情など、英国と日本の交流に関する内容をに
ついて、よろしくご投稿をお願いいたします。既に原稿をお
送りいただき、掲載されました方々にも、続報の投稿をぜひ
よろしくお願いいたします。また、特集テーマ、原稿依頼先
の案、紙面構成、編集方針などのご意見も積極的に寄せ
いただければ幸いです。

なお、本レター発送については、会計担当の島津様にご
協力いただきました。この場を借りて、心より感謝いたしま
す。

(石井加代子、慶應義塾大学、London School of
Economics, 2003-2004)